

2016年度 ルール変更対照表
競技:フロアホッケー

変更前	変更後	備考
	<p style="color: red;">国際本部が発行した2016年版ルールは、2014年版から内容の変更はありませんでしたが、全国トレーナー連絡協議会で検討した修正内容を反映しました。</p>	
<p>ルール 206 - 競技ルール</p> <p>1.チーム競技</p> <p>a)プレイヤーとラインローテーション</p> <p>2. ゴールキーパーの代わりに入る追加選手は、ゴールキーパー以外の全てのプレイヤーとの出場ライン数の差は1ラインでなければならない。</p> <p>7. もし、時間内にスコアシートを提出しない場合は、遅れたチームに1分間のベンチペナルティとなる可能性がある。</p> <p>d)競技時間</p> <p>1) 第3ピリオド(第9ライン)の前に両チームのコーチが放棄しなければ、第3ピリオドはストップタイムになる場合がある。</p> <p>e)フェイスオフ</p> <p>2) フェイスオフの場合、プレイヤーは完全にスティックと身体をフェイスオフラインよりも自分のチーム側に置かなければならない。 両プレイヤーのスティックのエンドはフェイスオフ・サークル内の同じエリアに置くことができるが、スティックはフェイスオフ・サークルの自分のチーム側に置かなければならない。</p> <p>5) フェイスオフの際、フェイスオフ・サークルから外にパックを掃き出す場合、スティックはパックの中心に触れてはならない。</p> <p>g)マイナーファウル</p> <p>1) c)プレイヤーがパックの上に立った場合。</p>	<p>6. 競技会ルール</p> <p>6.3 チーム競技</p> <p>6.3.1プレイヤーとラインローテーション</p> <p>6.3.1.2 ゴールキーパーの代わりに入る追加選手は、ゴールキーパー以外の全てのプレイヤーとの出場ライン数の差は1ライン以内でなければならない。</p> <p>6.3.1.8 もし、時間内にスコアシートを提出しない場合は、遅れたチームはベンチマイナーペナルティを受ける。</p> <p>6.4競技時間</p> <p>6.4.1 第3ピリオド(第9ライン)の前に両チームのコーチが放棄しなければ、第3ピリオド(第9ライン)はストップタイムになる場合がある。</p> <p>6.5フェイスオフ</p> <p>6.5.2 フェイスオフの場合、全てのプレイヤーは完全にスティックと身体をフェイスオフラインよりも自分のチーム側に置かなければならない。 両プレイヤーのスティックのエンドはフェイスオフ・サークル内の同じ側に置くことができるが、スティックはフェイスオフ・サークルの自分のチーム側に置かなければならない。</p> <p>6.5.6 フェイスオフの際、フェイスオフをするプレイヤーはパックの中心にスティックを触れさせずにフェイスオフ・サークルから外にパックを掃き出さねばならない。</p> <p>6.7マイナーファウル</p> <p>6.7.1.3 プレイヤーがパックの上に立った場合。 ※訳注:「プレイヤーがパックの上に立った場合」はマイナーファウルとなる。ただし、その後もパックに乗り続けるなど、フェイスオフからの速やかな試合再開を阻害し試合遅延を伴う行為は、ルール7.6に従いペナルティとなる。</p>	<p>適切な表現に変更</p> <p>ルール315との齟齬を解消</p> <p>適切な表現に変更</p> <p>入力ミス</p> <p>適切な表現に変更</p> <p>適切な表現に変更</p> <p>訳注を追加し、ルール7.6との違いを補足</p>
<p>ルール 303 - チャージング</p> <p>3. 体当たりをする、またはチャージングを行ったプレイヤーに対してはマイナーまたはメジャーペナルティが科さなければならない。</p>	<p>7.ペナルティ</p> <p>7.4チャージング</p> <p>7.4.4 体当たりをする、またはチャージングを行ったプレイヤーに対してはマイナーまたはメジャーペナルティが科せられる。</p>	<p>翻訳ミス (shall be imposed ~ の日本語訳を他の条文の表現と統一)</p>

2016年度 ルール変更対照表
競技:フロアホッケー

<p>ルール 305 - 試合遅延</p> <p>1. パックに横たわるもしくは上に乗る、パックを集めるおよび相手チームのアドバンテージ取得を妨げるために、わざとシュートをしたり、競技エリア外側でスティックでパックを叩いたりするといった故意に試合を遅らせる行為を行ったプレイヤーおよびゴールキーパーに対しマイナーペナルティが科せられる。</p>	<p>7.6試合遅延</p> <p>7.6.1 相手チームに有利な状況となることを妨げるために、パックの上に横たわったり立ったりする、パックを体で囲う、あるいは、競技エリア外側でわざとシュートをしたり、スティックでパックを叩いたりするなどの行為を行うことで、故意に試合を遅らせたプレイヤーまたはゴールキーパーに対し、マイナーペナルティが科せられる。 ※訳注:「パックを囲う」とは、パックを腕や体で覆うなど、他のプレイヤーがスティックでパックに触れられないようにすること</p>	<p>適切な表現に変更し、 解釈を補足</p>
<p>ルール 311 - ゴールキーパーの違反行為</p> <p>注意:ゴールキーパーがゴールクリースを離れ相手チームがパックを所有した場合、遅延によるペナルティが科せられる。</p>	<p>7.12ゴールキーパーの違反行為</p> <p>7.12.3 注意:ゴールキーパーがゴールクリースを離れており、かつ、相手チームがパックを所有している場合、ディレードペナルティとなる。</p>	<p>適切な表現に変更</p>
<p>ルール説明</p> <p>1. 同時に2人以上の同じチームのプレイヤーがペナルティにより退場になる場合、ペナルティは1人ずつ順番に受ける。</p>	<p>7.17ルール説明</p> <p>7.17.1 同時に3人以上の同じチームのプレイヤーがペナルティにより退場になる場合、ペナルティは1人ずつ順番に受ける。</p>	<p>翻訳ミス(原文では If more than two players are penalized ~)</p>
<p>付録1-個人スキルコンテスト ゴール周辺からのシュート 説明 アスリートはゴール回りの5カ所からパックをシュートする。パックはゴールの中心から6m離れた位置に置く。それぞれの線は、ゴールラインの中心を拠点とし、そこから30度ずつの間隔になるように引く。アスリートは10秒以内に全部のパックをシュートしなければならない。パックはアスリートがシュートする前に各スポットに置かなければならない。</p>	<p>9.個人スキルコンテスト</p> <p>9.1 ゴール周辺からのシュート</p> <p>9.1.3説明 アスリートはゴール回りの5カ所からパックをシュートする。パックはゴールの中心から6m離れた位置に置く。それぞれの線は、ゴールラインの中心を拠点とし、そこから30度ずつの間隔になるように引く。アスリートは10秒以内に全部のパックをシュートしなければならない。パックはアスリートがシュートする前に各スポットに置かなければならない。 ※訳注:10秒以内にシュートを打っていただ、10秒を超えてパックがゴールに入った場合も得点を認める。</p>	<p>解釈が分かれやすい部分なので、訳注にて補足</p>